

『三年とうげ』 物語の組み立て

場面・お話の内容

・ 第一場面（はじまり）

・ あるところに三年とうげとよばれる
とうげがあつた。

・ 春：れんげつつじのさくころ

秋：白いすすきの光るころ

― ため息の出るほどよいながめ

・ 言いつたえ

「三年とうげで転んだら、三年しか
生きられない」

← みんな転ばないように歩いた。

『三年とうげ』

場面・お話の内容

・第二場面（出来事が起きる）

おじいさん

・ある秋の日、となり村からの帰り道、三年とうげでうつくしいながめにうっとりしていた

・いそいで帰ろうとしたら、つまづいて転んでしまった。

・家にかえっておばあさんにしがみつき、おいおいないた。

・ごはんも食べず、病気になってしまった。

『三年とうげ』

場面・お話の内容

・第三場面（出来事が変化する）

水車屋のトルトリ

- ・「三年とうげでまた転べば長生きできるとおじいさんに言った

おじいさん

- ・しばらく考えてうなずいた。

『三年とうげ』

場面・お話の内容

・第四場面（むすび①出来事が解決する）

おじいさん

・三年とうげでわざと転んだ。

← ぬるでの木のかげから歌が聞こえてきた。

← すっかりうれしくなつて、とうげからふもとまで転がり落ちた。

← 「病気はなおった。」とにこにこわらった。

← すっかり元気になり、長生きした。

『三年とうげ』

場面・お話の内容

- ・ 第五場面（むすび②その後どうなったか）

かたり手

- ・ ぬるでの木のかげで歌ったのはだれだったのでしょうか。